

2018年度 大学自己点検・評価(法学部)自己点検・評価総括用シート 1

<法学部の教育研究目標の進捗状況>

教育研究目標(タイトル)		評価指標	評価尺度	進捗状況	
目標1	科学的な思考方法の修得	①スタートアップ演習受講生のアンケート調査によるスキルの十分な達成の割合。	A: 70%以上	2018年度目標値	B
			B: 50%~69%	2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点)	C
			C: 30%~49%		
		②スタートアップ演習受講生のアンケート調査によるLAに対する十分な満足度の割合。	A: 90%以上	2018年度目標値	C
			B: 80%~89%	2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点)	C
			C: 60%~79%		
			D: 60%未満		
		③研究者教員以外の講義や演習の各学期の履修者の数。	A: 3000人以上	2018年度目標値	B
			B: 2500~2999人	2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点)	A
			C: 2300~2499人		
			D: 2300人未満		
目標2	広範な知識と社会的視野の獲得	副専攻プログラムの受講者を増加させる。副専攻プログラムの受講者数。	A: 100人以上	2018年度目標値	C
			B: 60人~99人	2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点)	C
			C: 30人~59人		
			D: 30人未満		
目標3	正しい価値観と豊かな人間性の形成	実社会で学ぶ実践型体験学習プログラムへの参加者の増加	A: 180人以上	2018年度目標値	B
			B: 130人~179人	2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点)	A
			C: 90人~129人		
			D: 90人未満		
目標4	人権感覚の陶冶	人権問題を主に対象とする講義の履修者が現在延べ2500人とほぼ法学部生全員が履修している状態であるので、この人数を維持する。	A: 2500人以上	2018年度目標値	A
			B: 2400人以上	2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点)	A
			C: 2300人以上		
			D: 2200人未満		
目標5	国際的地球的な視野の確保	グローバルスタディーズ科目の受講者の増	A: 600人以上	2018年度目標値	B
			B: 400人~599人	2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点)	C
			C: 300人~399人		
			D: 300人未満		

<2016～2018年度の自己点検・評価の取組み総括>

総括1 <3年間の取組みによって改善したこと、向上したこと>

法学部では2012年度にカリキュラムを改正し、同改正で設置された「司法特修コース」の取組みは、その一期生が学部3年(早期卒業)+LS2年の5年間でLSを修了し、その年(2017年)秋の司法試験に2名合格するなど一定の成果を上げてきた。他方で、司法特修コースの学生の中でもLS進学志望者は約半数を占めるにすぎず、「特修コース」を他の領域に広げる形での再編・拡充の必要性があった。さらにそれと合わせて他のコースの再編も不可欠と考えられた。これらの再編・拡充の議論には人事構想の議論が伴うことから、中期人事構想計画をも合わせて策定するために「法学部将来構想・人事構想委員会」を2017年4月に立ち上げた。同委員会設置により、これまで年度ごとに考慮されていた人事構想を、4年先までを見据えたスパンで構想する制度が構築された。同委員会は2018年10月までに15回に及ぶ議論を行い、2018年度中に「法学部将来構想及び中期人事構想計画」を確定させる予定である。

SGU施策の推進、ダブルチャレンジ制度導入のため、1回生必修のスタートアップ演習のガイダンスの機会を活用し、入学後の早い段階よりダブルチャレンジへの意識を醸成した。その結果、留学プログラムへの参加者の増加、ハンズオン開講全学科目の参加者も増加しており、順調に推移している。

評価専門委員・所見記入欄:**■総括1について**

- ・ 概ね良好な進捗状況であり評価できます。更なる伸展が期待されます。(A)
- ・ 学部の将来を中期スパンで見据えた取組みがされている。(B)
- ・ 司法特修コースや、将来構想・人事構想計画など、評価に値する取組みがなされ、検証も適切に行われていると考えます。(C)
- ・ 司法特修コースやSGUの取組みが顕著な成果をあげていることが伺えます。(D)
- ・ いずれについてもしっかり取組み、課題も自覚されていると思います。ただ評価尺度が数値に偏っている印象はあります。(E)
- ・ 学部の将来構想・人事構想委員会において中期的な計画が具体的に検討されているなど、学部におけるPDCAサイクルが機能している様子がうかがえます。(F)
- ・ 目標1の③の3000人以上の数など数値が記入されていますが、これの判断基準は何でしょうか。(G)
- ・ 多くの教育研究目標について、設定された目標値を大きく達成されています。学部内の将来構想及び中期人事構想計画に基づいて、学部教育充実に向けて引き続き積極的な取組みが行われることを期待しています。(H)